

## 本埜村の白鳥

葛西邦雄

本埜村白鳥を守る会 千葉県四街道市めいわ5-4-7

本埜のハクチョウたちも、昨日、今日は強風のため、外へ出かけるのを躊躇って居りましたが、この一週間程は、飛来している田んぼから、周囲2 km程の範囲で餌を求めてウロウロしております。

ハクチョウたちは日長一日、水の中に首をドブプリ漬け込んでいるか、泥の中に嘴をつっこんでいるかどちらかです。余程、すきっ腹なのでしょう。

周囲の田んぼにはまだ未成熟の二番穂が多少あるのですが、落ち穂は殆ど食べ尽くしております。と言うより、稲刈り作業は全て機械化しているため、落ち穂などは田んぼに存在しないのです。

稲刈りの終わった田んぼの殆どは来年の耕作のため、耕運機を入れ、耕してしまいますので、田んぼの土の表面は裏返しになってしまいます。ハクチョウたちはそれでも餌を求めてくちばしで土の中を漁って居ますが、殆ど、稲株の根以外に食べる物が無いでしょう。実際、刈り取りの終わった田んぼを歩いても、落ち穂を殆ど見かけません。

本埜の周辺には利根川をはじめ、沼が沢山あるのですが、そこでも水深が深く、ハクチョウの餌は無いでしょう。利根川も改修されてしまって、湿地などは存在しません。

冬季、冠水すると、反収が一俵ほど低下すると聞いておりますが、一方で減反を殆ど強制されている状態では、農家の収入はどうなるのでしょうか。農家にとって真に説得力のないお話で、「先生の観念的なお話し」になってしまうのではないのでしょうか。

農業の近代化と共に、フィールドから野生生物の餌を人間が収奪してしまったのでしょうか。私はそう考えます。農業近代化の大きなツケを今、払っているのです。見学者にはそう説明しております。近隣の農家のボランティアにも、そのように話しているのです。「ハクチョウの餌になるべき農産物は、貴方の蔵の中。すこしハクチョウたちにも分けてあげてください。」お陰様で、農家の人など「家に古米があるから、持ってきてあげます。」と、理解を示してくださる方も沢山いらっしゃいます。

また、外国から船で持ち込まれる、食用油の原料、家畜の飼料など、揚げ荷の終わった後、大量のゴミが発生するのですが、それが焼却処分になっています。それ

を、無料で分けてもらっております。メーカーのご理解が有れば、其れはできます。会員がトラックでコンボイを組んで、港まで貰いに行きました。

実は、私は定年前に大型船の船長をやっております、その事情には詳しいのです。また、船が出港したあと乗組員が船倉内を掃除し、ゴミを海中に投棄しています。その海中投棄でさえ、一船で一度に何十トンにもなります。

メーカーの協力により、本埜のハクチョウたちは、コンベアーからでたゴミ、食用油の搾り粕などを食べさせられて居ります。それに、近隣の農家から寄せられる古米、米選下などで、結構満腹して居るかもしれません。工夫次第では、餌に不自由することは有りません。

新潟のトキ、鳥取のコウノトリなどの二の舞だけはさせたく有りません。雑穀などを主たる餌にしている生物は、餌を人間が沢山持っています。白菜、キャベツの下葉なども大量に出て参ります。

給食センターからも、野菜くず、パンなども一日の食い分には十分なだけ出て参ります。ハクチョウだけが見映えがするため、餌にありついて、ほかの鳥たちには真に不公平に思えて仕方が有りません。カラスなど、退治させられてしまいます。